

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530604

研究課題名(和文) 大学教育のエスノグラフィー

研究課題名(英文) An Ethnography of Higher Education

研究代表者

張 曉瑞 (Zhang, Xiao Rui)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：30409528

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は日本、中国、アメリカ、ベルギーの大学で、どのような教育実践が行われているのかについて調査した。大学側の教育理念だけではなく、大学教育の関係者、特に大学生と教員はそれぞれどのような思いがあるのかを理解することを目的とした。この研究結果は日本のこれからの大学教育実践の発展について参考になると考えている。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this longitudinal ethnographic study is to explore the practical process of higher education on university campus in different social cultural contexts. Qualitative data including classroom activity video and audio recording, observational field-notes, interviews with students and faculty members, etc. were collected in four countries including Japan, China, the United States, and Belgium. Discourse analysis was conducted for data interpretation. The research result reveals that the overall social cultural environments, students' and educational professionals' beliefs on education interact in the practical process. Students' subjectivities, their views of themselves and their relations to others in the environment, play a key in directing their educational behaviors. Cross-cultural referencing on the diversities of educational practices in the four target countries provides useful information for higher education in Japan.

研究分野：社会言語学

キーワード：大学教育 エスノグラフィー ディスコース分析 社会文化

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、日本の大学教育は様々な危機を背負っているという認識があった。問題を解決するために、研究者たちは様々な視点から日本の大学教育の見直し努力をしていた。特に、教育システム、政策、評価方法などの改善方法について研究を進めていた。しかし、これらの研究は主にマクロレベルでの分析であり、日本の大学教育の日常実践についての注目は少なかった。

(2) 日本の大学教育の研究分野では構造主義の視点が用いられており、近年欧米で進められている多様性のある社会教育理論と研究方法論が見られなかった。この研究ではポスト構造主義の視点をを用い、繁雑になっていく時代に合わせ、ポスト現代社会の教育現場の実践を理解したい。特に、アイデンティティ、ディスコース、パワーリレーション、とエージェンシー(自主性)などの視点を通して、大学生や教員の教育実践における自分および自分と他者の関係、そして教育活動に対する認識を理解したい。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は大学教育実践に参加している関係者の人々、特に主役としての大学生、大学教員および大学職員、保護者などが大学教育に関してどのような経験があり、どのような想いがあるのかを理解することである。よって、彼らは大学教育をどのように意味づけ、どのような願望と期待があるのかを聞きたい。

(2) 日本の大学教育の実践を詳しく理解するため、そして、大学教育のグローバル化を進めていくため、他の国の大学教育の実態を理解する必要もあると思う。そこで、日本ととても関わりのあるアメリカやヨーロッパおよび近隣の国で、かつ日本への留学生も増え続けている傾向にあると言われている中国の大学教育を考察することを本研究の目的とする。

3. 研究の方法

(1) 本研究では大学キャンパスを一つの集団組織として見ていく。エスノグラフィーの手法を用い、フィールドワークを行い、キャンパスライフや授業の観察、学生や教員およびほかの大学関係者にインタビューを行う上、質的データを収集した。それに加えて、フィールドワーク先の大学の歴史的文献、大学の制度に関する資料などを収集し、ディスコース分析を行った。

(2) 2012年から2015年まで四年間をかけて、日本の二つの大学、中国の二つの大学、

アメリカの一つの大学、ベルギーの一つの大学でフィールドワークを実施した。授業の録画、インタビューの録音を書き起こし、ポスト構造主義のアイデンティティ、ディスコース、パワーリレーション、エージェンシー(自主性)などの概念を用い、分析した。

4. 研究成果

(1) 発展するテクノロジーと教育活動

過去10年間インターネットの発展とともに大学教育の環境は大きく変わってきた。二百年の歴史を持つヨーロッパの名門ベルギーのアントワープ大学のフィールドワークは、学生のオンラインとオフラインおよび授業内と授業外での活動はどのように共に働き、学生の学習成長に役立つのかに焦点を当てて研究した。授業に参加し、授業過程を録画し、そして、大学生と教員にインタビューを行った。これらのデータを、社会学習とオンライン学習理論を用い、分析を行った。初段階の分析結果としてはオンラインの学習活動は主に学生の情報収集に役立ち、教室活動も含めたオフラインの学習活動は学生のプロフェッショナル・アイデンティティを作り上げるプラットフォームとして成り立っていた。この研究の貢献は、上記のような教育実践は学生のエージェンシー(自主性)を十分に発展させるのに役立つことが分かった。日本の教育現場を活性化することを参考になると思う。

(2) メディア環境における大学生集団

ソーシャルメディアは日本の大学生にとって日常生活の一部であるとも言える。社交的なツールでありながら、大学生の集団的溜り場として存在している。そこで、学習活動にはどう役立つのかについて研究を行った。具体的には、モバイルアプリのLINE上で行った活動を分析した。実際にLINE上での会話データを収集し、社会学習理論とネットコミュニティの理論を用い、分析を行った。研究結果としてはLINE上では学生が学習コミュニティを結成し、様々な社会的、学問的な活動を行ったことが分かった。デジタル世代の大学生たちは独特な認識方法、学習方法を持つことも分かった。

この研究は社会学習理論とソーシャルメディア研究を結びつけた新しい研究領域である。

(3) 学習に関する認識

大学は学習を行う場所であるということは当たり前の認識だと思う。しかし、学習とはどういう意味なのかについての問いが少ないと研究を行っているうちに感じるようになった。ヨーロッパにある二つの大学で行われ

た多文化、多言語の背景を持つ大学生のプログラムに参加し、フィールドワークを行う事ができた。そのプログラムは“Situating Learning”という概念に基づき、“Project-Based Program”の教育方法をデザインした実践型の教育であった。私が行ったフィールドワークでは任務中心、学生主導の学習過程の中で、「学習」ということはどこで、どのように行われているのかを設問として質的データを集め、分析を行った。その結果、“Project-Based Program”では参加者の自主性、任務を組み立てる際の批評的思考、評価方法の明確性などが参加者同士の知識の共有によって養われていることが分かった。

(4) 大学教育の脱構築

構造主義の視点による見た大学教育は大きな機械の大きな構造図しか見えない。具体的に各部分の内部がどのような状態になっているのが詳しく理解ができない。この研究ではポスト構造主義の方法論を用い、大学教育の実践を脱構築した。日本、アメリカ、中国の大学で学生の大学生活について個々の体験とその体験に対する認識を述べてもらうなどのナラティブデータを収集した。収集したデータを基にディスコース分析を行った結果、大学生や大学教員が描いているキャンパスライフが見えてきた。この研究ではそれぞれの人にとって、大学教育はどのような意味を持ち、誰によって、誰のために、どのように行われているのかなどの疑問に答えた。

上記に加えて、ナラティブは研究におけるデータ収集のツールとして使えるだけでなく、教育と学習のツールとしてもとても役立つことが分かった。これは今後の教育実践の参考になると考えられる。

(5) 方法論の考察と研究手法の広がり

社会科学の研究分野において、方法論と研究手法は大きく言えば量的研究と質的研究二つに分かれている。量的研究は“真実”と“客観性”を重視する一方、質的研究は“相対性”と“複数の現実”という世界観を認める。量的研究は傾向性と関連性を図る特徴があり、質的研究は特定な社会現象に対して理論的に解釈し、新たな理論を構築する特徴がある。世界観が大きく違ったため、両者は対立する状態が続いていた。この研究を通して、両者の融合の可能性を探索した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

(1) Xiao Rui Zhang Situating Learning In a Project-Based Program. Proceedings of the International Academic Conference on Social Sciences. 査読有、2014、265-270

(2) Xiao Rui Zhang Deconstruction of Japanese Higher Education through Narrative Inquiry. Proceedings of Annual Conference on Social Studies, Communication and Education. 査読有、2013、131-139

(3) Xiao Rui Zhang China through Multiple Lens: Japanese Students' Deconstruction and Reconstruction of their Images of China through Photo Taking and Sharing. Bulletin of Transilvania University of Brasov Series VII: Social Sciences & Law, Vol 6 (55), No. 2、査読有、2013、205-212

〔学会発表〕(計 8 件)

(1) 発表者名：Xiao Rui Zhang
タイトル：Learning Online and Offline: How Do They Go Together?
学会：The 10th Annual International Technology, Education and Development Conference、2016年3月7-9日、Valencia, Spain

(2) 発表者名：Xiao Rui Zhang
タイトル：Investigating Virtual Learning Community: A Case Study
学会：The 8th Annual International Conference of Education, Research and Innovation、2015年11月16-18日、Seville, Spain

(3) 発表者名：Xiao Rui Zhang
タイトル：How They Know Who They Are: Japanese Students' Narrative Reflection on Their "Selves"
学会 The Third European Conference for Academic Disciplines、2013年12月3-6日、Freiburg, Germany

(4) 発表者名：Xiao Rui Zhang
タイトル：Deconstruction of Japanese Higher Education through Narrative Inquiry
学会：Annual Conference on Social Studies, Communication and Education、2013年11月21-23日、沖縄、日本

(5) 発表者名 : Xiao Rui Zhang
タイトル : Situating Learning in a
Project-Based Program
学会 : International Academic
Conference on Social Sciences、2013 年 10 月
16-17 日、大阪、日本

(6) 発表者名 : Xiao Rui Zhang
タイトル : Learning Defined through
the Narratives of the Learners
学会 : The Ninth International
Congress of Qualitative Inquiry、2013 年 5
月 15-18 日、University of Illinois at
Urbana-Champaign, USA

(7) 発表者名 : Xiao Rui Zhang
タイトル : A Panorama Picture of
Educational Practice through
Mixed-Methods
学会 : The Ninth International
Congress of Qualitative Inquiry、2013 年 5
月 15-18 日、University of Illinois at
Urbana-Champaign, USA

(8) 発表者名 : Xiao Rui Zhang
タイトル : University Education: What
does it Mean to My Participants?
学会 : The 34th Annual Ethnography
in Education、2013 年 2 月 22-24 日、
University of Pennsylvania, USA

6 . 研究組織

(1)研究代表者

張 曉瑞 (Zhang, Xiao Rui)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号 : 3 0 4 0 9 5 2 8